

# 環境活動レポート

活動期間

2017年4月1日～2018年3月31日

発行：2018年9月

株式会社 芸濃

## 1.組織の概要

- ① 事業所名 株式会社 芸濃
- ② 代表者氏名 楠井 隆
- ③ 所在地 芸濃リサイクルセンター：三重県津市芸濃町椋本 3550
- ④ 事業内容 産業廃棄物処理業（産業廃棄物収集運搬、中間処理）  
土木工事業  
上下水道工事業  
とび・土工・コンクリート工事業  
機械器具設備工事業  
建築工事業
- ⑤ 資本 4000 万円
- ⑥ 沿革 昭和 57 年 11 月 芸濃クレーン創業  
昭和 63 年 1 月 株式会社 芸濃 設立  
平成 6 年 11 月 産業廃棄物収集運搬許可取得  
平成 12 年 6 月 芸濃リサイクルプラント運用開始  
平成 12 年 11 月 三重県産業廃棄物処分許可取得  
平成 26 年 11 月 三重県産業廃棄物収集運搬優良認定  
平成 26 年 11 月 三重県産業廃棄物処分業優良確認  
平成 26 年 12 月 岐阜県産業廃棄物収集運搬優良認定  
平成 26 年 12 月 滋賀県産業廃棄物収集運搬優良認定  
平成 27 年 1 月 愛知県産業廃棄物収集運搬優良認定  
平成 29 年 12 月 三重県産業廃棄物処分業優良認定
- ⑦ 事業の規模 ①売上：約 2 億 3000 万円（平成 29 年度分）  
②従業員 15 名  
③本 社：敷地面積 80 m<sup>2</sup> 延床面積 80 m<sup>2</sup>  
芸濃リサイクルセンター：  
敷地面積 12521 m<sup>2</sup> 延床面積 80 m<sup>2</sup>

⑧ 許認可一覧と許可品目

- ・産業廃棄物関係  
別紙 A・B 参照  
積替え保管 なし

⑨取扱い産業廃棄物

産業廃棄物処理の収集運搬実績

年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
廃棄物収集運搬実績 (運搬数量)	31213.80 t	40656.75 t	23125.87 t

- ・運搬車両の種類

- ・車両の使用燃料及び排出ガス適合車両数

車種	台数	使用燃料
10 t ダンプ車	7	軽油
4 t ダンプ車	1	軽油
2 t ダンプ車	1	軽油
4 t ユニック車	1	軽油
7 t 脱着装置付コンテナ専用車	1	軽油
4 t 脱着装置付コンテナ専用車	1	軽油
合計	12	
平成 17 年度基準 (PM10%低減車)	1	軽油
平成 17 年基準 (NO <sub>x</sub> ・PM10%低減車)	2	軽油
平成 21 年度基準	3	軽油

別紙 A

項目	県	許可日 (更新日)		許可内容	許可番号
			有効期限		
①	三重県	平成 29 年 12 月 4 日 平成 36 年 11 月 27 日		産業廃棄物処分業【中間処理】	第 0 2 4 2 4 0 2 5 0 4 1 号
②	三重県	平成 26 年 11 月 21 日 平成 33 年 11 月 20 日		産業廃棄物収集運搬業	第 0 2 4 0 4 0 2 5 0 4 1 号
③	愛知県	平成 27 年 1 月 28 日 平成 34 年 1 月 27 日		産業廃棄物収集運搬業	第 0 2 3 0 0 0 2 5 0 4 1 号
④	岐阜県	平成 26 年 12 月 17 日 平成 33 年 12 月 16 日		産業廃棄物収集運搬業	第 0 2 1 0 0 0 2 5 0 4 1 号
⑤	滋賀県	平成 26 年 12 月 25 日 平成 33 年 12 月 24 日		産業廃棄物収集運搬業	第 0 2 5 0 1 0 2 5 0 4 1 号

許可品目は別紙 B (次頁) 参照

産業廃棄物処分・収集運搬業許可証内容一覧

別紙B 県・市名 類型	※種替え、保管を除く														その他			
	燃え殻	汚泥(水銀を含むもの)	廃油	非フラスコ用	紙くず	木くず	繊維くず	ゴムくず	金属くず	ガラスくず	酸塩(水銀を含むもの)	がれき類	ばいじん(水銀を含むもの)	コンクリートくず		陶磁器くず	ダスト類	
三重県(処分業) H36.11.27迄	○	○								○	○	○		△	△		ガラスくず等は、「ガラスくず、コンクリートくず」以外の種類の廃棄物、改築又は除去に伴って生じたものを除く(陶磁器くず)	
	注1									注2	○	注2		注2	注2	注2		
三重県 H33.11.20迄	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△		ガラスくず等は、「ガラスくず、コンクリートくず」以外の種類の廃棄物、改築又は除去に伴って生じたものを除く(陶磁器くず)	
				注3						注3		注3		注3	注3			
愛知県 H34.11.27迄	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
				注4														
岐阜県 H33.12.16迄	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		注2		注5														
滋賀県 H33.12.24迄	○	注1 注3		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
				注3														○

注1 無機性汚泥に限る  
 注2 石綿含有産業廃棄物を除く  
 注3 石綿含有産業廃棄物を含む自動車等破砕物を除く。石綿含有産業廃棄物を含む自動車等破砕物を除く。  
 注4 自動車等破砕物を除く。  
 注5 工作物の新築、改築又は除去に伴って生じたものを除く。自動車等破砕物を除く。石綿含有産業廃棄物を除く。

△ ガラスくず等とは、「ガラスくず、コンクリートくず(工作物の新築、改築、又は除去に伴って生じたものを除く)及び陶磁器くず」

○ 工作物の新築、改築又は除去に伴って生じたコンクリートの破砕物。石綿含有産業廃棄物を除く。

・産業廃棄物中間処理実績

年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
廃棄物処理実績（処理総数量）	44670.79 t	51403.31 t	52049.22 t

・中間処理施設の種類及び処理能力

施設の種類	設置場所	設置年月日	処理能力
破砕施設	津市芸濃町棕本 3550 (芸濃リサイクルセンター内)	平成 12 年 6 月 8 日	ガラスくず等 760 t/日 (8h)
			鉍さい 1280 t/日 (8h)
			がれき類 1280 t/日
混練・造粒固化 施設	津市芸濃町棕本 6218-1 (芸濃リサイクルセンター内)	平成 23 年 4 月 15 日	鉍さい 345 t/日 (10h)
			汚泥 180 t/日 (10h)
移動式 破砕施設	津市芸濃町棕本 6218-1 (芸濃リサイクルセンター内)	平成 26 年 10 月 24 日	ガラスくず等 210 t/日 (10h)
			鉍さい 200 t/日 (10h)
			がれき類 126 t/日 (10h)

・許可品目：

【破砕施設】 ガラスくず等・鉍さい・がれき類

【混練・造粒固化施設】 鉍さい・汚泥

【移動式破砕施設】 ガラスくず等・鉍さい・がれき類

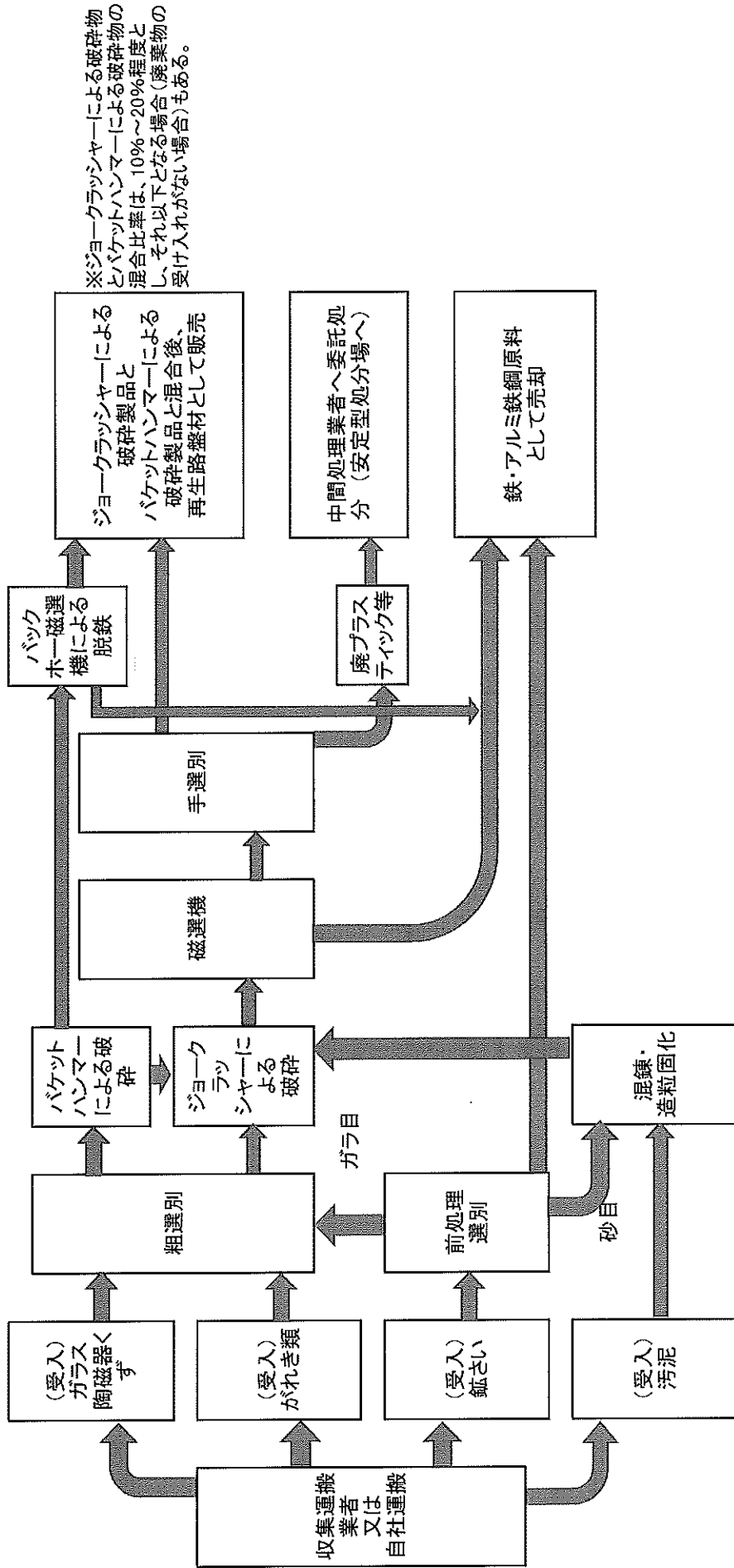
処理工程図

- ・別紙 C 参照

⑩廃棄物の処理料金

- ・運搬距離、廃棄物の種類、回収形態等により算出。

# 産業廃棄物処理工程図

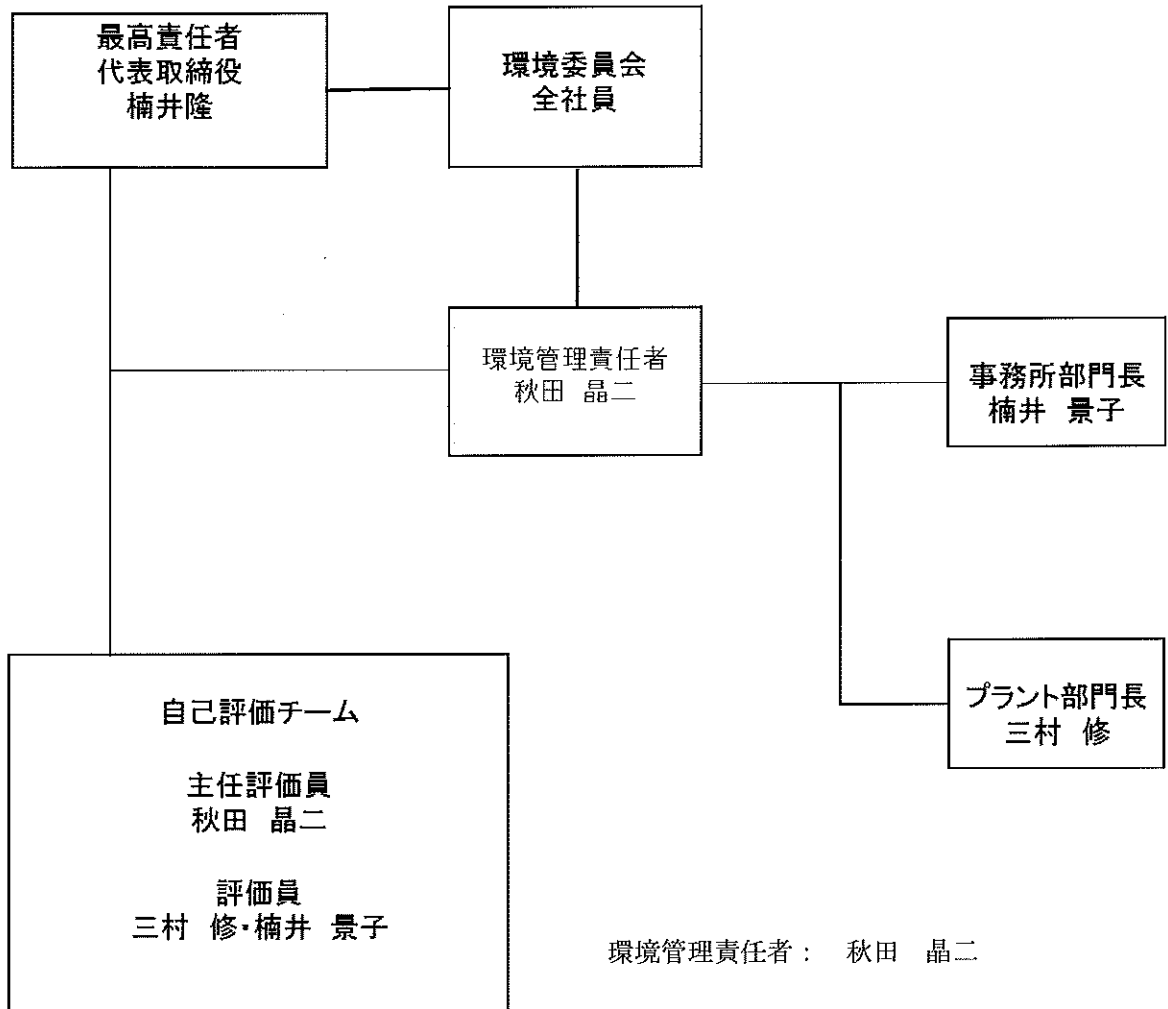


※ジョークラッシャーによる破碎物とバケットハンマーによる破碎物の混合比率は、10%～20%程度とし、それ以下となる場合(廃棄物の受け入れがない場合)もある。

平成28年3月1日現在

別紙 C : 処理工程図

①環境活動の取り組み体制



環境管理責任者： 秋田 晶二

TEL : 059-265-4044 FAX : 059-265-4047



## 2.登録対象

### ①登録内容

M・EMS登録証

- ・登録日： 2016年5月1日
- ・登録期限 2019年4月30日
- ・登録番号 M・EMS2W-0003      KES2W-5-0003

- ②登録の範囲      産業廃棄物処理業（産業廃棄物収集運搬・中間処理）、  
土木工事業、上下水道工事業、とび・土工、  
コンクリート工事業、機械器具設備工事業、  
建設工事業に係る全ての事業活動

### ③対象事業所

- ・芸濃リサイクルセンター：三重県津市芸濃町棕本 3550 番地

### 3.環境宣言

## 環 境 宣 言

### 基本理念

株式会社 芸濃は、地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、全組織を挙げて環境負荷の低減及び環境保護に努力します。

### 方針

株式会社 芸濃は、産業廃棄物の収集運搬業務（積替え保管を含む）及び産業廃棄物中間処理業務に係わる全ての活動、製品及びサービスの環境影響を低減するために、次の方針に基づき環境マネジメント活動を推進して地球環境との調和を目指します。

1. 当社の活動、製品及びサービスに係わる環境影響を常に認識し、環境汚染の予防及び環境保護を推進するとともに、環境マネジメント活動の継続的改善を図ります。  
なお環境保護には、持続可能な資源の利用、気候変動の緩和及び気候変動への適応、並びに生物多様性及び生態系の保護を含みます。
2. 当社の活動、製品及びサービスに係わる環境関連の法的及びその他の要求事項を順守します。
3. 当社の活動、製品及びサービスに係わる環境影響のうち、以下の項目を環境管理重点テーマとして取り組みます。
  - (1) リサイクル率の向上
  - (2) 廃棄物適正処理の推進（分別方法の指導・提案）
  - (3) 廃棄物の処理量当たりの電力使用量削減
  - (4) 廃棄物の処理量当たりの燃料使用量削減
  - (5) 緑化活動
4. 一人ひとりが環境負荷低減活動及び環境保護に積極的に実践できるように、この環境宣言を組織の全員に周知するとともに一般の方が入手できるようにします。
5. 三重県及び津市の環境改善活動に積極的に参画します。

上記の方針達成のために、環境改善目標を設定し、定期的に見直し環境マネジメントシステムを推進します。

制定日 2012年6月1日

改訂日 2018年4月1日

株式会社 芸濃

代表取締役 楠井 隆

#### 4.環境改善目標

2015年度以降3年間の環境改善目標と実績（基準年度：2014年）

No	環境改善目標		単位	2014年度 実績		目標値		
						2015年度	2016年度	2017年度
1	リサイクル (資源化)率向上 2014年実績値 の維持管理	0.998 (RC総量+鉄屑) ÷搬入ガラ	率	0.998	目標	0.998	0.998	0.998
					実績	1.099	1.424	1.071
2	グリーン購入	年4件以上	件	4	目標	4	4	4
					実績	5	5	4
3	分別方法の 提案・指導件数	年60件以上	件	— (2015.11月開始)	目標	25件以上 (5ヶ月間)	60件以上	60件以上
					実績	28	66	
4	燃料+電力の CO <sub>2</sub> 総排出量 の削減 (2%減)	二酸化炭素 総排出量	kg-CO <sub>2</sub>	433176	目標	0.75%削減 429927	1.5%削減 426678	2.0%削減 424512
					実績	356226 (17.8%減)	396548 (8.5%減)	363161 (16.1%減)
	4-1 燃料使用量 の削減 (2%減)	燃料使用量 (軽油)	ℓ	147987	目標	0.75%削減 146877	1.5%削減 145767.2	2.0%削減 145027.3
					実績	116573 (20.6%減)	131142.22 (11.4%減)	117651.06 (20.5%減)
		二酸化炭素 排出量	Kg-CO <sub>2</sub>	387578.0	目標	384671	381764	379827
					実績	305305	343461	308128
	4-2 電力使用量 の削減 (2%減)	電力使用量	kWh	92302.5	目標	0.75%削減 91611	1.5%削減 90918	2.0%削減 90457
					実績	103080 (12.5%増)	107464 (16.4%増)	111403 (20.7%増)
	二酸化炭素 排出量	Kg-CO <sub>2</sub>	45597.4	目標	45256	44913.5	44685.8	
				実績	50921	53087	55033	
5	緑化活動	年1本以上 植樹	本	—	目標	1	1	1
					実績	1	1	1

削減率；基準年度比

※中部電力のCO<sub>2</sub>排出原単位 0.494 kg-CO<sub>2</sub>/kWh (2014年度)

経済産業省・環境省の軽油排出原単位 2.619 kg-CO<sub>2</sub>/ℓを参照

※国土交通省間接リサイクル推進計画 2014 目標値の平成 30 年度目標 99%以上の維持を適用（弊社リサイクル製品は建設リサイクルにおける用途が多いため）

- ・総排水量及び水の使用量においては生活排水のみの為改善目標から除外したが管理目標として取り上げ、節水に心がけ、その削減に努めている。
- ・産業廃棄物の排出量としては少量の為改善目標から除外したが、管理項目として取り上げ、削減に努める。
- ・電力・燃料使用に伴う CO<sub>2</sub>排出排出量は次年度（2018年度）より管理項目として取り上げ、項目としての目標は除外とし、電力・燃料使用による受入産業廃棄物の処理率（電力・燃料量÷受入産業廃棄物）として個別に環境改善目標とした。

※化学物質についてはその使用実績がありません。

5.環境改善目標と実績

(基準年度：2014年度)

2017年度 環境改善活動実績 (2017年4月～2018年3月)

No	環境改善目標	具体的施策	項目	単位	目標値	実績値	評価	
1	リサイクル (資源化)率向上 2014年度 実績値の維持	排出事業者への分別 指導 分別・選別作業の 効率化 処分先へのコンテナ 設置、3Sの徹底	受託した産業 廃棄物の 処理量	率	0.998	1.071 (注1)	A	
2	グリーン購入	グリーン購入商品調査 社員へのグリーン購入促進	グリーン購入	件	4	4	A	
3	分別方法の提案・ 指導件数の向上	分別方法の改善 廃棄物の再利用 コンテナ設置の推進	提案・指導 件数	件	60以上	60	A	
4	燃料+電力の CO <sub>2</sub> 排出総量 の削減(2014年 度排出量より 2%減)	手元作業員 との連携 設備の効率 運転 3Sの徹底	電力と軽油の 合計	二酸化炭素 総排出量	kg-CO <sub>2</sub>	424512 (2.0%減)	363161 (16.1%減)	A
				二酸化炭素 総削減量	kg-CO <sub>2</sub>	8664	70015	A
			内訳	燃料使用量・ 軽油	ℓ	145027.3	117651.06	(A)
				二酸化炭素 排出量	kg-CO <sub>2</sub>	379827	308128	A
				二酸化炭素 削減量	kg-CO <sub>2</sub>	7751	79450	A
				電力使用量	kWh	90457	111403	(C)
				二酸化炭素 排出量	kg-CO <sub>2</sub>	44685.8	55033	C
				二酸化炭素 削減量	kg-CO <sub>2</sub>	911.6	9435.6 (増加)	C
5	緑化活動	計画の策定 植樹の実施 今年度の実施内容の 評価	地域社会の 環境問題	本	1	1	A	

評価記号 A:良好 (100%以上) B:やや不足 (90~100%) C:不適合 (90%以下)

※中部電力のCO<sub>2</sub>排出原単位 0.494 kg-CO<sub>2</sub>/kWh (2014年度)

経済産業省・環境省の軽油排出原単位 2.619 kg-CO<sub>2</sub>/ℓを参照

注1: 自社在庫のガラ(自社解体分がれき類)を多く処理したためこのような結果となっている。

管理項目での実績(平成29年度)

No	管理項目での実績	具体的施策	単位	実績値 (H28)	実績値 (H29)
1	水の使用量削減	洗車時の節水励行	m <sup>3</sup> /年	332	241

産業廃棄物の排出実績(平成29年度) 混合廃棄物換算値(0.26 t/m<sup>3</sup>)

産業廃棄物の種類	単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度
混合廃棄物(ミンチ)	t	36.17	31.48	27.40
混合廃棄物	m <sup>3</sup>	17	39	51.5
合計	t	40.59	41.62	40.79

電力・燃料の使用による二酸化炭素排出量(小数点以下切捨て)

	単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度
電力使用量	kWh	116573	131142	111403
二酸化炭素排出量	kg-CO <sub>2</sub>	50921	53087	55033
燃料使用量(軽油)	ℓ	116573	131142	117651
二酸化炭素排出量	kg-CO <sub>2</sub>	305304	343460	308127
二酸化炭素総排出量 (電力+燃料)	kg-CO <sub>2</sub>	356225	396547	363160

※中部電力のCO<sub>2</sub>排出原単位 0.494 kg-CO<sub>2</sub>/kWh(2014年度)

経済産業省・環境省の軽油排出原単位 2.619 kg-CO<sub>2</sub>/ℓを参照

## 5.1 具体的環境活動の評価（2017年度実績に対する評価）

- ・リサイクル率の向上では、目標の設定方法を変更しリサイクル率が100%を超えないようにする。
- ・グリーン購入では、目標を達成。来年度からは管理項目として継続していく。
- ・分別方法の提案・指導件数の向上では目標を達成している。
- ・重機燃料使用の効率改善では、重機の新車購入により低燃費の車両に順次変更し、目標を達成した。
- ・燃料+電力使用の効率改善は、製品の需要が多くあり在庫ガラを多く使用して製作した為に目標を達成することができなかった。機械自体も古くなっているため電力を多く使用することも考えられる。機械のメンテナンスを定期的に行う。年々取り扱う産廃の量が多くなってきている為、CO<sub>2</sub>排出総量のみを環境改善目標にしていくと、環境改善目標に対する実績が不適合となっていく。目標の設定を見直す。
- ・敷地内の緑化活動では、道路側境界線沿いにキンモクセイの植樹を1本実施。今後も継続して実施していく。

## 5.2 2018年度の活動及び今後の課題

- ・リサイクル率向上の項目において、リサイクル率の算出方法を来年度より変更する。  
従来の計算方法は、（製品+売却有価物）÷受入産業廃棄物、であったが  
来年度からの計算方法は、  
【受入産業廃棄物量－排出ゴミ】÷【受入産業廃棄物量】という計算方法に変更する。
- ・二酸化炭素総排出量の項目について、重機燃料の削減については作業員の理解が深まり達成している。電力については、年々、受入産業廃棄物の受入量が増加するに伴い、二酸化炭素総排出量のみでの目標設定が不適合となっている。来年度からは、電力と燃料（軽油）の使用量による二酸化炭素総排出量での目標設定を、電力と燃料（軽油）をそれぞれ個々に環境改善目標と設定し、電力・燃料使用量による受入産業廃棄物量の1t当たりの処理による目標設定に変更する。  
計算方法は、電力使用量÷受入産業廃棄物量  
燃料量（軽油）÷受入産業廃棄物量  
という計算方法により、原単位としての管理を行い、1t当たりの受入産業廃棄物の処理を向上させることにより、電力・燃料使用量を削減させる事が目標である。

2017年度まで継続をしてきた二酸化炭素総排出量については管理項目として継続し経過を観察する。

- ・2017年度まで環境改善目標として継続をしてきた、グリーン購入の環境改善目標としての継続は取りやめ、来年度からは管理項目として継続し経過を観察する。

2018年度からの環境改善目標を、2017年度を基準年度とした「表-1：2018年度以降3年間の環境改善目標と実績」に示す



表-1 2018年度以降3年間の環境改善目標と実績（基準年度：2017年）

No	環境改善目標		単位	2017年度実績	目標値		
					2018年度	2019年度	2020年度
1	リサイクル(資源化)率 2017年度実績の維持管理	0.999 (受入産業廃棄物量-排出ゴミ) ÷ 受入産業廃棄物量	率	0.999	0.999	0.999	0.999
2	分別方法の 提案・指導件数	年60件以上	件	60	60件以上	60件以上	60件以上
3	廃棄物の処理量当たりの 電力使用量削減 基準年度比2.0%削減	(電力使用量÷処理ガラ量)	kWh/t	2.136	0.75%削減 (2.119)	1.5%削減 (2.103)	2%削減 (2.093)
				目標	実績	目標	実績
4	廃棄物の処理量当たりの 燃料使用量削減 基準年度比2.0%削減	(燃料使用量÷処理ガラ量)	ℓ/t	2.256	0.75%削減 (2.239)	1.5%削減 (2.222)	2%削減 (2.210)
				目標	実績	目標	実績
5	緑化活動	年1本以上 植樹	本	1	1	1	1
				目標	実績	目標	実績

削減率：基準年度比

※国土交通省間接リサイクル推進計画2014目標値の平成30年度目標99%以上の維持を適用  
(弊社リサイクル製品は建設リサイクルにおける用途が多いため)

## 6.環境関連法規の順守状況

- ・当社の事業活動に制約を受ける環境関連法規については、適正に順守されており、違反はありません。

なお、関係機関等からの指摘・苦情・訴訟はありません。

## 7.最高責任者による全体の評価見直しの結果

### 7.1 全体評価

リサイクル率の向上の項目において不適合となっている月がみられたが、累計で見ると目標を達成している。100%の達成率を超える月があること自体が理解しがたく、周囲に理解してもらいにくい。来年度からの環境改善目標の設定を大幅に変更するとの報告があったが、新目標にて運用をして経過を観察し作業員や第三者に理解しやすいような目標設定をしてもらいたい。

### 7.2 見直し評価

リサイクル率の向上の項目の算出における計算方法を変更するに際し試行として2017年度の実績値を環境改善目標の実績値として当てはめ、それを今後3年間2018年～2020年の基準としていく。管理項目として二酸化炭素排出量等の項目も個別に管理して推移を観察していく。

## 8.コミュニケーション

プラント周辺の清掃活動を自主的に行った（毎月1回）

以上